

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、生徒が自ら以下の力を身につけられるよう、教職員が一体となり、多様な取組みを進めていく。

1 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育む力 2 地域に学び、志と希望をもって勉学に打ち込む力 3 将来の社会と人生を見据え、進路を拓く力

2 中期的目標

- 1 信頼される学校づくり
- (1) 新学習指導要領を踏まえ、生徒の持つ学力を最大限に引き出す。
- ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業に関する生徒アンケートの綿密な分析等に基づき、『使える英語プロジェクト』なども活用し「わかる授業、興味を持てる授業」をめざした授業改善に取り組む。あわせて、「朝の学習会（朝ガク）」の全学年実施により継続的に基礎学力の定着を図る。
- ※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する項目の満足度（H24：80％）を毎年５％以上引きあげ、それを維持する。
- (2) 卒業後の人生を見据え、規範意識と豊かな心をはぐくむ。
- ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、放課後の「居残り指導」を徹底する。また、授業規範の確立を図る。加えて、コミュニケーションの大切さを実感し身につけさせるため、「朝のあいさつ運動」を拡大する。
- ※平成 27 年度には、遅刻総数を 2,000 件以下にする。（H23：8,251 件、H24：3,329 件）
- ※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H24：50％）を毎年５％以上引きあげる。
- ※朝のあいさつ運動参加者（H23：11.2％、H24：44.6％）を平成 26 年度には全校生徒の 60％にする。
- イ いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団づくりを推進する。
- ※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H24：51％）を毎年５％以上引きあげる。
- (3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、『実践的キャリア教育・職業教育』支援事業、『学校経営推進費』等を活用し「展望を持たせる取組み」をさらに充実させる。
- ア 3 年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善を進め、平成 25 年度より『吹田進路プログラム（SSP）』を実施して平成 27 年度には定着させる。
- また、平成 23 年度から全校的に取り組みはじめた継続的な進学講習を定着・発展させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H24：68％）を毎年５％以上引きあげる。
- ※平成 23 年度から全校的に取り組みはじめた進学講習（H23：59 人、H24：84 人）への参加生徒数を平成 27 年度には平成 23 年度の 3 倍増にする。
- イ 「学校経営推進費事業」を活用して I C T機器の効果的活用、個別自習室・マルチルーム等の整備などを図り、個別指導的要素を盛り込んだアプローチを強化することで、生徒に自学自習の習慣を定着させ、とりわけ進学実績の向上に努める。
- ※2 年次 1 月の基礎力判定テストの結果を段階的に引きあげ、平成 27 年度には C ゾーン以上の割合を 50％、B ゾーン以上の割合を 15％以上に引きあげる。
- ※平成 27 年度には、関関同立・産近甲龍の合格者 50 人以上をめざす。
- 2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり
- (1) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な推進
- ア 生徒にとっての「魅力ある学校づくり」の一環として、昨年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など、生徒の総合的な資質の向上に向けて円滑な推進に努める。
- ※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（H25 から実施）を毎年５％以上引きあげる。
- イ 大学進学希望の高まりに応えるため、進学に重点を置く進学クラスを平成 25 年度第 1 学年より順次開設する。授業の質を向上させ、習熟度別講座の開設ならびに土曜講習を計画的に実施する。
- ※平成 25 年度より進学クラスを毎年生徒の希望に応じて 1 クラス以上開設する。進学クラスの土曜講習は原則全員参加とする。
- (2) 生徒の集団や学校への愛着・帰属意識を高めるため、学校行事・部活動のさらなる充実、活性化を図る。
- ア 行事を通じて得られる成功体験により生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるとともに、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会の主体的な活動を積極的に支援する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における学校生活の項目の肯定率（H24：73.9％）を毎年 5％引きあげ、学校行事後の生徒向けアンケートにおける満足度（H24：70％）を 80％以上で維持する。
- イ 入学時のクラブ紹介に工夫を凝らすなど、部活動への加入を促す取組みを計画・実施する。また、卒業生や地域との連携を深めるとともに、地域の小・中学生を対象にしたスポーツ教室や文化教室を開催する部を増やす。
- ※部活動の加入率（H24：52％）を毎年３％以上引きあげ、H27 年度には 60％以上にする。
- (3) 安心・安全な学校生活が送れるよう、教育相談体制の充実、ならびに保護者等との連携強化を図る。
- ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、生徒情報会議を月 1 回開催し、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室を昼休みと放課後に開放し、担当教員が生徒の相談に対応するなど、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。また、スクールカウンセラーによる相談日を年間 15 回設定し、生徒や保護者からの相談に対応する。
- イ 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時に P T A実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。さらに、学校見学会を活性化し、より広汎な中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。
- ※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の満足度（H24：生徒 18％、保護者 23％）を毎年 2％増加させる。
- 3 校内組織・教職員集団づくり（運営委員会を中心とした組織的運営）
- (1) 運営委員会を中心として、さらに学校運営の機動性を高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、担任団、分掌、事務室等から学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、より積極的に提案される学校風土を醸成する。
- ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画については運営委員会で議論を深めるなど、目標を共有した組織的、一体的な取組みをスピード感を持って行う。
- イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整を円滑に行う。
- ※教員向け学校教育自己診断等の「学校運営」の校内組織・教職員集団に関する項目の肯定率（H24：35.5％）を毎年５％以上引きあげる。
- (2) I C T等、校内ネットワークを活用し、諸会議の効率化に努める。
- ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、運営委員会から積極的な呼びかけを実施し、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有を行い、会議資料の簡素化、職員会議の内容の充実を図る。 ※引き続き、職員会議に要する時間を平均 1 時間とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
＊昨年度に続き、今年度も保護者からのアンケート回答率約7割と、高い関心とご協力をいただいた。 【学習指導等】 ・授業規律については、ほぼすべての教員（97.8％）が「きっちりと注意している」と回答しているが、生徒自身は「私語などせず、集中して授業に取り組んでいるか」という設問に対して、37.6％が「そう思わない（「どちらかと言えば」を含む）」と回答している。 ・この結果から、教員は注意してはいるものの、必ずしも私語の減少、授業への集中には効果的に結びついておらず、生徒自身もまだまだ不十分などところがあることを自覚しているという現状が浮びあがってくる。 ・一方で、「授業のわかりやすさ、興味が持てるか」という設問では、肯定的な回答は昨年度に比べてやや改善したものの、生徒40.7％、保護者63.7％にとどまっており、教員が授業アンケート等の結果を踏まえて自ら改善に取り組んでいるという回答（75.0％）と併せて考えると、授業力の向上という点では、まだ十分な成果は出ていない。 ・生徒の「自覚」は、より充実した授業を提供するうえで大きな希望であり、学校としてはこの結果を真摯に受け止め、来年度以降も個々の教員がそれぞれの授業力の向上に努めるとともに、今年度、府教委の「育成支援チーム事業」によるサポートを受けて作成中の「＊吹高学習スタンダード」を活用し、教科・科目、学校として、さらなる授業力向上に努める。 ＊教科・科目として、高校3年間を見据え、各学年における具体的な到達目標と成果指標を設定するものです。 【進路指導等】 ・今年度も、進路希望に応じた教育課程の設定、ならびに進路HRや情報提供などの進路指導について、生徒・保護者の概ね7割を超える肯定的な回答をいただいた。 ・昨年度策定した、高校3年間を見据えた系統的な進路指導の指針である「吹田進路プログラム（SSP）」が一定完成し、これに基づいてすべての教職員が一体感をもって実践に努めていることへの評価だと喜んでいる。 ・また、今年度は、府教委の「経営推進費事業」で設置した個別自習室、ICTを活用した授業、マルチルームにおけるきめ細かな指導、予備校DVDを活用した実践的な学習支援により、本校生にとって不十分であった自学自習を強力に後押ししていることも好評価につながっているものと考えている。 ・加えて、今年度導入した「進学クラス」の存在も、生徒たちに一定の意識改革を促すことにつながったと考えている。同じ学校の仲間が大学で授業を体験したり、土曜講習で頑張っている姿を間近に見ることで、進学希望者も増加傾向にある。 ・次年度以降も、引き続き、これらのリソースをさらに有効に活用することで、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導を心がけるとともに、保護者の皆様にも十分にご理解をいただいたうえで、お子様とともに進路希望の決定に関わっていただけるよう努める。 【生徒指導等】 ・この3年間ですっかり定着した遅刻・染髪等に対する生活指導については、今年度もすべての項目において9割前後の保護者から肯定的な回答をいただいた。生徒からも平均約50％近くの肯定的な回答が寄せられており、実際に遅刻や違反行為は大幅に減り、同時に授業はもとより、学校行事や部活動についても生徒たちが積極的に取り組むことが「当たり前」になりはじめている。 ・今しばらくは、生徒の状況に合わせ、保護者のご理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を続けていくことが重要だと考えており、そうすることで、生徒一人ひとりが指導の趣旨を正しく理解し、自らの行動を是正していくことができるようになってくれるものと大いに期待している。 ・体育祭・文化祭等の学校行事についても、生徒・保護者ともに肯定的な回答が昨年度よりさらに増し、すべての項目で8割を超えた。とりわけ、これらの行事の中心になって取り組んだ3年生では「（どちらかと言えばではなく）そう思う」が53.8％と高い値となった。生徒の自主性が徐々に定着してきている表れであり、大きな進歩だと喜んでいる。 ・次年度以降も、生徒たち自身が充実していると感じられるよう、学校行	第1回（6／18） 【H25 年度学校経営計画について】 ・3年後の「めざす学校像」をプレゼンテーションし、その実現性と実効性が評価された学校に配当されたという「学校経営推進費」（年間予算約500万円）について、教職員の熱意と頑張りを心から評価したい。 ・吹田進路プログラム（以下 SSP）など、この間の学力向上に向けた様々な精力的な取り組みと合わせて、この予算を最大限活用して生徒たちの学力をさらに充実させ、その象徴としての目標である関関同立・産近甲龍への進学者数を増加させてほしい。それは、単なる進学実績の向上にとどまらず、すべての吹高生の自信につながる。 ・規範意識や基本的生活習慣の向上は、やはり大切だ。遅刻が大幅に減少していることは高く評価したい。今後もさらなる規範意識・基本的生活習慣の確立を図ってほしい。 ・「授業アンケート」については、生徒と教員が真摯に現状を見つめ、協力して授業改善に取り組むことが最も大切な目的であり、アンケート結果をきっちりと教員にフィードバックし、教員自らが授業改善に取り組むことが肝要である。 ・吹高の学校経営計画は、「人間力」の向上という言葉で、学校で行うすべての取組みを結集して「自分で考え、自から動く」生徒の育成をめざしているものと解釈している。引き続き、この精神を忘れずに取り組んでもらいたい。 【進学クラスについて】 ・「進学クラス」で実施している「土曜講習」、全学年で実施している「外部講師による講習」は、学力向上を図るうえで、とても有効である。 ・土曜講習については、教員の皆さんはいわゆる休日出勤となり大変だと思うが、中学生・保護者にとっては大きな安心材料になる。 ・来年度以降、1年次（新入生）については、希望する生徒・保護者と十分に話し合う時間が持てないことから、学習環境を著しく損なわないよう、40（±1）人×n倍のクラス編成を基本とすることが妥当である。 ・新入生の希望者数がこの枠に収まらなかった場合、どんな調整基準を選ぶとしても、一長一短がある。学校でしっかりと協議したうえで判断・決定し、説明・周知することで理解は得られるだろう。 【まとめ】 ・吹田進路プログラムを基本に、「進学クラス」や「土曜講習」の取組みが学校の牽引力となり、加えて「学校経営推進費」事業を活用した自学自習の定着、ICTを活用した授業展開など、3年後が非常に楽しみである。今後も、学校経営計画に基づき、ぶれることなくしっかりと取り組んでもらいたい。 第2回（12／17） 【平成 25 年度授業アンケートに関して】 ・アンケートの真の意義は、結果を踏まえた改善に向けた取組みにある。吹高では、全教員がアンケート結果を共有し、授業改善に前向きに取り組まれた。この経験を踏まえ、授業力の向上に一層の努力をお願いしたい。 ・アンケート結果の分析後、教科・科目ごとに質の向上に向けた話し合いを持ち、各教科から出された授業改善に向けた創意工夫等を集約し、全教員にフィードバックする取組みは組織的であり、素晴らしい。そのような地道な努力の積み重ねが、必ずや生徒の学力向上、学校全体の底上げにつながるので、今後もしっかりと頑張ってもらいたい。 【学校教育自己診断に関して】 ・学校教育自己診断は、学校側にとってかなりプレッシャーがあったと思う。しかし、学校・教員が重要性を認識し、学校改革に活かそうと分析し、結果を公表している事は非常に良い事である。今後も、様々な角度から分析し学校運営の指標としていただきたい。 ・「あいさつ運動」などにより、朝の通学態度は以前に比べて確かに改善されている。しかし、夕刻の下校（特に自転車）マナーは、まだまだ改善されているとは言えない。とりわけ、クラブ活動を終えて下校する生徒の中には、自転車で狭い一般道路をかなりのスピードで走ったり、飲食店の前に集団で自転車を止めるため、周辺住民の皆さんに迷惑がかかっていることもある。さらに生徒の意識を高めていただきたい。 ・「少し厳しい指導」に対する批判的なご意見もあったそうだが、全体的には多くの保護者が肯定的に捉えておられる。さらに多くの保護者のご理解を得られるよう、今後も丁寧な説明を続けつつ、あとしばらくは、現在の指導を継続してもらえばよいと思う。 【今年度の取組みに関して】 ・「学校経営推進費」事業により整備された個別自習室等の利用率も高いなど、成果が期待できる。継続的な予算確保に努め、教育環境のさらなる整備を図っていただきたい。 ・個別自習室の利用時間が17時までのようだが、今後も生徒たちの自学自習の定着を図り、意欲的な生徒に対しては、利用時間の延長なども検討してはどうか。 ・個別自習室では、落ち着いた環境の中で教員が生徒に対して指導できるとともに、生徒同士で教え合うことも可能で、予算を掛けた成果が十分に出ている。 ・（昨年度からの）SSPの作成・定着に向けた取組みが、確実な成果へとつながっていく期待感がある。大学進学希望者の関関同立・産近甲龍合格への環境整備も円滑に進みつつ

府立吹田高等学校

事としての「中身の充実」を図るとともに、より多くの保護者が実際に体育祭・文化祭を見に来ていただけるよう、今年度発行を始めた「生徒会新聞」などによる「生徒発」の案内、メルマガ・HP等も活用した「丁寧な情報発信」を続けていく。 ・教育相談については、今年度も7割を超える保護者から肯定的な回答いただいた。一方で、学校に悩みを相談できる場があると回答した生徒は約4割と、昨年に比べて少し減少している。その原因として、「悩みを抱えた生徒」が増えているのではないかと危惧しており、相談室のさらなるPRを図りたい。 ・また、今年度も9割以上の保護者が、教育相談体制のさらなる充実を期待しておられる。次年度以降も、職員研修等の充実、相談室だより等の充実はもとより、地域の関係機関や専門医、保護者との連携を継続発展させ、学校内外での教育相談・支援教育への認知を高める工夫をすることで、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていく。 【学校運営】 ・社会全体が大きく変わりつつあり、学校に対する期待がますます大きくなる中、「学校として、目標を共有した組織的、一体的な取り組みをスピード感を持って行う」ことをめざした、運営委員会を基盤としたミドルアップ・ダウンによる学校運営に取り組み、2年目となる。 ・昨年度4割弱であった教職員の学校運営に関する肯定的な回答が、55.4%となり、学校としての教育目標達成に向けて、運営委員会を中心として全教職員が日常的に議論を深める重要性、ならびにその有効性についての認識が少しずつ定着してきている。 ・来年度も、引き続き、教職員が目標を共有し、機動的な学校運営を行うという組織原則を堅持したうえで、積極的に意欲的な教職員集団を作り、めざす学校像の実現に努める。 ・諸会議の効率化については、昨年度よりさらに理解が深まり、81.8%の教職員が職員会議の時間が短縮したことを実感している。同時に、「時間」に対する意識が高まり、結果としてSSCによって把握できる時間外勤務時間も短縮傾向にある。 ・生徒に関わる重要な事項等での協議については、十分な時間をかけるなど、バランス感覚は大切だが、来年度以降も生徒と向き合う時間を確保するため、ICTのより積極的な活用など、全教職員が協力して諸会議の時間を短縮し、実際の取組みに時間をかける意識を高めていく。	あり、近い将来、生徒たちはもとより、保護者・教職員の頑張りがきっちりと実を結ぶだろう。引き続き、一層の努力をお願いしたい。 ・「吹高学習スタンダード」の策定を題材として、府教育委員会の施策も効果的に活用し、若手教員の計画的な育成に取り組んでいる。府教委⇒若手のリーダー⇒若手教員⇒全教員と浸透させていく過程において、若手教員が順調に成長しており羨ましく、また、効果的な進め方だと思う。 ・（学校経営推進費事業で示された）3年後の目標達成に向けた「道筋」を確固たるものとするため、若手教員の積極的な行動力・発信力等と、ベテラン教員の持つ知識・経験が効果的に組み合わせられ、学校全体が一丸となっている。今後も、この状況をさらに強化し、生徒の希望進路実現に向けた取組みを積極的に企画・実行してもらいたい。 【まとめ】 ・今年度も学校教育計画、学校経営計画の実現に向け努力され、着実により良い方向に学校が変化しつつある。この変化を保護者や地域も感じており、また注目もしている。 ・今後も、「SSP」「進学クラス」「土曜講習」「ICTの効果的活用」「吹高スタンダード」策定などの取組みを継続するとともに、「個別自習室」「マルチルーム」等のさらなる活用により、基礎学力・自学自習力の充実を図り、希望進路の実現を図っていただきたい。 第3回（3／8） 【H25 年度 学校経営計画及び学校教育自己診断結果に関して】 ○授業アンケート結果の分析後、教科・科目ごとに質の向上に向けた話し合いを持つとともに、教務部が中心になって、各教科から出された授業改善に向けた創意工夫等を集約し、全教員にフィードバックしているとお聞きしたが、生徒の授業に関する満足度（肯定率）が、76.3%であった。76%といえば、かなりの高評価であるが、学校の評価は、目標に達していないとしており、若干自己採点が厳しいのではと感じる。今後も、授業の質の向上を図り、目標を達成する取組みを期待する。 ○遅刻数が一定の下げ止まり感じがあるとの説明であったが、一方で「1,000 字書写」と丁寧な生徒との話し合いにより、遅刻数が減少したのも事実である。遅刻の原因としては、「寝坊や学校生活への嫌気」など様々な理由があると思うが、今後は、遅刻常習者を減らす工夫とともに、常習者を出さないような新たな指導方法などを模索し、遅刻数がますます減少し、落ち着いた環境で勉強できるようにしていただきたい。 ○「吹田進路プログラム（SSP）」の策定など、進路指導においてもしっかりと取り組んだ結果、生徒・保護者の満足度等において目標数値を上回った、大変な努力の結果と評価したい。ただ、「子ども未来専門コース」を選択した生徒の進路先として保育関係が若干少ないように感じる。26 年度に吹田市と協力して実施する「保育実習」でしっかりと成果をあげ、目的に応じた進路実現に努めてほしい。 ○自己評価の結果、残念ながら目標達成ができなかった項目もあるが、総体的に見ればこの間の改革・行動により大きな結果・成果が出ている。何かを変えていこうとするときには、一般的に現状打破と現状維持の意見が2分されるが、吹田高校は「生徒の為・生徒の向上」という目的意識が明確で、教員のまとまりがよいので成果が表れてきたのだと思う。今後は、さらに高みをめざして、教員・生徒がさらに一体となり、さまざまな角度から生徒にアプローチして、よりよい学校となっていきたい。 ○3年前と比べると、「吹高」は本当に変わったなあ、と感じる。地域もの方々からも、そのような言葉をよくお聞きするが、少し厳しく言わせていただくと「変わったのは当たり前。あらためてスタートラインに立った」という認識で、さらに内容を高めていってほしい。 ○PTAも体育祭や文化祭などに関わっているが、学校運営にPTA（保護者）が参画すること、保護者も生徒と一緒に何かをしよう、共に向上しようという意識が大切だという認識が高まってきた。今後も、楽しくPTA活動をしながら学校の実態・内容をしっかり観察し、学校の質の向上に寄与したい。 【H26 年度学校経営計画及び学校評価（案）に関して】 ○H23 年度以降、「運営委員会による意思決定」、「土曜講習」「SSP の策定・実施」「WJK による授業方法の改善」「丁寧な授業アンケートのふりかえりに基づく授業改善」等々、実に様々な取組みにより、大きな成果をあげていただいた。来年度も、これらの取組みをさらに定着させることで、全ての項目において目標を達成していただけるものと確信している。 【まとめ】 ○今年度の取組みは、概ね高く評価している。来年度以降も、教職員が一致団結して、スピード感と同時に丁寧さを忘れることなく、吹田高校のさらなる改革、発展に尽力していただきたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 信頼される学校づくり	(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す ・授業アンケートの活用と授業見学週間の定着 ・組織的な教科指導の実施 ・授業規律の確立と授業マナーの向上	・授業アンケートを7月、12月に実施・分析し、授業改善に活用する。 ・全教員が公開授業週間に1回は授業見学を行い、助言シートを提出する。 ・教科会議を精力的に実施し、教材・テストの共通化、定期的な研究授業、授業外での生徒の学習時間増加に向けた検討を進める。 ・教員・生徒が一体となり、授業マナー向上に取り組む。(机上整備・準備の徹底、生徒への「授業マナー向上」ポスター募集、携帯電話電源 OFF 等)	・生徒向け授業アンケートの授業に関する質問への満足度 85%以上 ・全教科 1 回以上の研究協議実施 ・7・12 月の授業アンケートで生徒の授業外学習時間を比較し、増加させる。 ・生徒向け学校教育自己診断の授業規律（マナー）に関する質問に対する満足度 80%以上	・アンケートでの授業に対する満足度は 76.3%にとどまった。次年度以降、教務部が提示した授業力向上の改善案を参考に全教員が満足度の向上を図る。(△) ・I C Tを活用した授業を含めてほとんどの教科で公開授業を実施。さらに、精度の向上に努める。(○) ・授業外学習時間は、1 年生では増加したが、2 年生では減少した。次年度も、個別自習室の利用促進をさらに図るなど、授業外の学習時間の増加に努める。(○) ・自己診断での設問を今年度変更したこともあり、授業規律に関する肯定率は、61.4%にとどまった。次年度以降、授業規律向上キャンペーンを展開するなどして、数値の向上を図る。(△)
	(2) 規範意識と豊かな心をはぐくむ。 ・遅刻撲滅 ・身だしなみ指導	・全学年で居残り指導の継続 ・頭髮指導の継続 ・正しい制服着用の徹底	・遅刻数 2,500 件未満 ・帰宅指導件数 50 件未満 ・下校時のブレザーチェックで着用率 100%	・遅刻数は 3,150 件で、目標は達成できなかった。一定の下げ止まり感があり、来年度に向け新たなアプローチを検討中。(△) ・頭髮帰宅指導は 27 件 (H24：56 件) と目標達成。指導の効果が出て落ち着いてきている。(◎) ・下校時のブレザーチェックは、生徒会とも連携して実施。ブレザー着用率 100% 達成。(◎)
	・互いを認め合える集団づくり	・いじめアンケートの実施、迅速な対応 ・人権ホームルームの質・量両面での向上	・6・7 月にいじめアンケートを実施し、迅速な対応を行う。 ・2・3 学期に人権 HR を行い、生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目の肯定率 56%以上	・いじめアンケートで、該当生徒はいなかった。日常から教職員がいじめ撲滅をきっちりと意識し、きめ細かな観察・指導を行ってきた結果と考えているが、気を緩めることなく取り組んでいきたい。(○) ・学校教育自己診断での人権に関する項目の肯定率は 56%とこらうじて目標を達成したが、期待より低い数字であった。社会全体で人間関係がより複雑になる傾向も危惧される中、来年度以降、さらにきめ細かな指導に努める。(○)
	(3) 展望を持たせる進路指導の充実 ・3 年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善	・3 年間の進路指導計画に基づいた指導を学校全体で情報を共有しながら実践し、成果検証と改善点の検討を行い、スキームの質を高める。	・平成 25 年度末に、新しい進路指導計画を確立させる。	・「S S P」が一定完成し、組織的・系統的な進路指導が生徒にも教職員にも意識されてきている。進路指導に関する学校教育自己診断では生徒の 7 割、保護者の 8 割から肯定的回答を得、特に 3 年生では昨年度より約 13 ポイント上昇した。来年度は、S S P をさらにブラッシュアップする。(◎)
	・進学講習の定着・発展 ・自学自習の習慣の定着	・全学年で実施している進学講習（H24 年度継続参加者 84 人）について、時期・目的を明確にして、受講促進を図る。 ・「分かる授業開発 P T（WJK）の立ちあげ ・「進学講習 brush up team (SBT) の組織化 ・個別自習室使用開始 ・マルチルーム使用開始 ・予備校 DVD による進学講習の開始 ・I C T機器を活用した公開授業実施と研究協議	・進学講習への継続参加生徒数を平成 25 年度には 120 人にする。 ・2 年次 1 月の基礎力判定テストの学習到達 C ゾーン以上（人気私大の推薦入試合格可能性 40%以上）の割合（H24：27%）を 35%に引きあげる。 ・関関同立・産近甲龍レベルの合格者（H24：3 人）を倍増させる。	・科目数・規模ともに十分な進学講習を提供できた。継続参加者数も平日放課後分だけで 132 人となり、目標を達成した。来年度は、講習のさらなる質的向上に努める。(◎) ・C ゾーン以上の生徒は 17.9%と昨年実績も下回った。2 年次での進路意識の向上が喫緊の課題。(×) ・関関同立・産近甲龍レベルの合格者は、5 人と残念ながら目標には届かなかったが、受験結果等から、確実な学力レベルアップの兆しが見られた。(○)

府立吹田高等学校

2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり	(1) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な推進 ・こども未来専門コースへのデュアル・システムの導入 ・進学クラスの円滑な導入	・3年次で展開される専門教科の授業を円滑に推進する。 ・26年度実施の「保育実習」に向けて、受け入れ先を確保する。 ・25年度に進学クラスを1クラス以上開設する。 ・進学クラスの土曜講習を計画的に実施する。	・生徒向け授業アンケートの満足度90%以上 ・受入れ幼稚園・保育園を15園以上確保する。 ・土曜講習の満足度80%以上。	・専門コース対象者のアンケートで、授業に関する満足度は、2年生95%、3年生93%と目標を上回った。キャリア教育の一貫としても充実した内容となっている。来年度もこの経験・成果を活用し、90%以上の満足度を維持する。(◎) ・吹田市子ども部の協力を得て、具体的な実習先もほぼ確定する等、地域との連携がさらに深まった。(◎) ・土曜講習に対する満足度は、平均して82.7%であり目標達成。ほとんど欠席もなく極めて順調に進んでいる。参加生徒の意識も確実に高まっている。次年度以降、設定した進学実績を達成できるように3年間の講習カリキュラムを立てさらに内容の充実を図る。(◎)
	(2) 学校行事・部活動のさらなる充実、活性化 ・生徒会執行部の主体的な活動を拡大・促進 ・学校行事の質の向上、その実現のための体制づくり ・クラブ加入促進のためのPR活動の拡大	・生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、吹田高校生の自主的な活動の支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制を構築する。 ・校内外における部活動の情報提供を活性化し、加入促進のPR活動を拡大・推進する。	・体育祭、文化祭の生徒アンケートにおける満足度80% ・学校教育自己診断での教員向けアンケートで「学校行事の組織的な取り組み」に関する質問項目での肯定率60% ・生徒・保護者向けアンケートのPR活動に関する質問項目での肯定率50%	・学校教育自己診断での、「体育祭・文化祭に自主的・積極的に参加しているか」という設問に対する肯定的な回答はすべての学年で80%を超え、目標達成。とりわけ3年生では85.6%となり、高い満足度であった。来年度はさらなる質的向上を図る。(◎) ・「学校行事の組織的な取り組み」については、肯定率68.9%と、昨年度の約5割から大きく改善した。教員生徒会部・生徒会執行部を中心とした地道な働きかけが結実しつつある。(◎) ・学校教育自己診断での、「部活動」に関する設問に対する肯定的な回答は、平均74.6%で目標達成。今年度久しぶりに復活した「生徒会新聞(仮称)」等をさらに活用し、来年度以降も肯定率の向上に努める。(◎)
	(3) 安心・安全な学校生活、教育相談体制の充実、ならびに保護者等との連携強化 ・安全管理の徹底 ・校内美化の推進 ・教育相談・支援教育の充実	・生徒・教職員による安全点検を定期的に行い、安心・安全な学校環境を維持する。 ・関係各機関と連携し、防災避難訓練、救急処置講習会、薬物乱用防止教室を実施し、地域的な安全対策を推進する。 ・保護者や生徒保健委員会、地域を巻き込んだでの清掃活動を通して美化意識を向上させる。 ・多様な生徒情報を保健部主導による月に1回の生徒情報会議で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く支援する。	・定期安全点検を年間3回以上実施 ・左記の各種研修・講習を確実に実施する。 ・生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーンを年間8回以上実施 ・相談室通信を年間3回以上発行 ・健康相談を定期的 to 実施 ・生徒・保護者向けアンケートでの教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の認知度を50%以上	・定期安全点検を4回実施し、必要な修繕、府教委への整備計画の申請等を行った。来年度は、日常の安全点検の啓発にも努めたい。(◎) ・予定していた各種研修・講習をすべて実施。事後の生徒アンケートでは満足度90%を超えるものもあるなど、内容的にも充実した取り組みであった。(◎) ・ミニ・クリーンキャンペーンも予定通り8回実施した。次年度はさらに実施回数増、内容充実に努める。(○) ・相談室通信を年間4回発行。生徒の意識喚起につながっており、次年度はさらに発行回数を増やす予定。(○) ・学校医・学校歯科医の協力をいただき、内科・歯科の健康相談を実施(各希望者：2人・30人)。予想以上の希望者があり、次年度は実施回数増の予定。(○) ・学校教育自己診断で「学校に悩みを相談できる」と答えたのは、生徒の4割強、保護者の7割強。地域・保護者との連携について肯定的な回答は平均約64%で、全体として目標を大きく上回った。教職員の日常的な連携意識も高まっており、来年度もさらに向上させたい。(◎)

府立吹田高等学校

3 校内組織・教職員集団づくり	（１）学校運営の機動性をさらに高める ア・運営委員会による目標を共有した取組みの推進 イ・首席を中心としたグループ内の円滑な連絡調整 （２）職員会議の簡素化・効率化	（１）ア・運営委員会の役割を確認し、教育目標の達成に向けた取組みなどの議論を深め、スピード感を持って目標を共有した組織的、一体的な取組みを行う。 イ ・学務グループと生徒グループが、グループ長（首席）主導により、グループ内の相互協力体制を確立し、組織的校務運営の効率化を高める。 ・担任団や各分掌・事務室等から、教育目標の達成に向けた具体的な改善方策や新たな取組みを、積極的に提案する。 （２）・職員会議のレジュメを工夫することで、より速やかな議事進行をめざす。 ・校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間の短縮をめざす。	ア・イ ・学校運営に関する教員向けアンケートを実施し、校内組織の機動性・教職員集団の活性化に関する項目の肯定率 50%以上 ・職員会議の平均所要時間 1 時間	・学校運営に関する教員向けアンケートでの肯定率は平均 55.4%と、昨年度の約 4 割弱から大きく改善し、目標を達成。 ・運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンが少しずつ定着しつつあり、「目標を共有した組織的、一体的な取組みをスピード感を持って行う」組織として、教職員の意識も高まりつつある。社会全体が大きく変わり、学校に対する期待がますます大きくなる中、来年度も「生徒のために」をスローガンに、より機動的な学校運営の確実な定着をめざす。(◎) ・職員会議の平均所要時間は約 64 分で、ほぼ目標達成。教職員からも 82%の肯定的な回答を得た。各分掌・学年でのミドルアップ・ダウンが浸透しつつあり、必要な議論は確実に行いつつ、生徒に向き合う時間の確保にも好影響を与えている。来年度も報告事項の精査、資料の簡素化をさらに進め、会議に要する時間の短縮をめざしていく (○)
--------------------	--	--	---	---